



# 盧武鉉大統領の日本国会演説

(抜 粋)

2003.6.9(月) 東京

韓日関係の未来は、両国がいかなる目標とビジョンを共有しているかにかかっています。

私はその共同目標として、両国が共に「21世紀の北東アジア時代」を開いていくことを提案致します。

日本の青少年が東京で列車に乗り、釜山(プサン)とソウルを経て北京まで修学旅行に行くのは決して、遠い未来の夢ではないはずです。

ヨーロッパ諸国はすでに半世紀前に、未来のための共同目標を設定しました。1957年には欧州経済共同体(EEC)が発足しました。今日、欧州は単一市場、単一通貨まで実現し、国民の間の心の障壁は崩れ落ちました。

韓日両国が意志を共にすれば、北東アジアでもこうした協力の未来を切り拓くことは、いくらでも可能です。

北東アジアの経済規模はすでに世界の5分の1を占めています。人口はヨーロッパの4倍に達しています。それに世界でもっとも躍動的な市場の成長と限りない成長潜在力を備えています。

しかし今、この地域内ではいまだに不信の要素が残されています。経済発展の格差問題の他に、世界的な地域統合の趨勢にも大きく遅れを取っています。

従って、21世紀の北東アジア時代を実現するためには、誰かがまず乗り出さなければなりません。それは韓国と日本です。何よりも韓日両国は、民主主義の伝統と市場経済の経験を共有してきたからであります。

私は、「平和と繁栄の北東アジア時代」こそ、両国の指導者が国民に提示すべき韓日共同の未来だと確信しております。

改めて、議員皆様と各界の指導者の皆様に、大きな指導力を発揮して下さることをお願い申し上げます。

尊敬する議員の皆様。

韓国は今、来る北東アジア時代に備えて、着実にその準備を整えています。

「参与政府」の政策構想は、韓国を「北東アジアの平和と協力のハブ」に作り上げることを目指しています。

ユーラシア大陸から太平洋へ、また太平洋から大陸に、人とモノ、資本と技術、情報と文化が自由に行き来しとどまることもできる、先進システムを構築していく考えです。

韓国はまた、持続的な市場改革を推進しています。経済システム全体を「グローバル・スタンダード」に合うよう改革を続けています。透明で公正な競争の場を設けることで、内国人と外国人間に差がない、開かれた市場を実現させます。

こうした努力が成功を収めれば、韓国は北東アジアの人々といっしょに融合できる「共同繁栄の架け橋」となるでしょう。